

# 水源郷 わくわく通信

第6号

発行：平成28年2月26日

お問い合わせ先：国土交通省 関東地方整備局 鬼怒川ダム統合管理事務所 調査課  
宇都宮市平出工業団地14-3 電話：028-661-7764

水陸両用バスは  
導入から  
10年

この水源郷わくわく通信は、  
水源地域ビジョンの取り組みの  
様子を、皆さまにお知らせする  
ために発行するものです。

## 水源地域ビジョンとは

「水源地域ビジョン」は、ダム水源地域の自治体、住民等がダム事業者・管理者と共同で策定主体となり、下流の自治体・住民や関係行政機関に参加を呼びかけながら策定する水源地域活性化のための行動計画です。

## 湯西川湖で実施されている“水陸両用バス運行”について

### 水源地域の活性化を図るために水陸両用バスの運行が進められています。

湯西川湖で運行されている水陸両用バスは、地域活性化を促すために、平成18年から社会実験として川治ダム湖（八汐湖）を利用し始められました。その後、湯西川ダムが完成したことから、平成25年より湯西川ダム湖（湯西川湖）で運行されています。

そこで、水陸両用バスを利用する観光客がどのような特徴を持っているかをお知らせします。



### 年間約2万3千人が水陸両用バスに乗車しています。

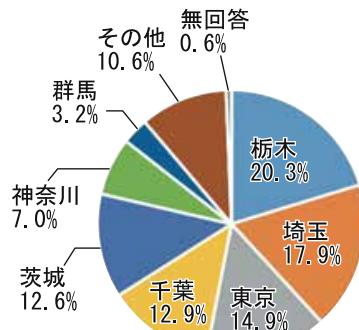
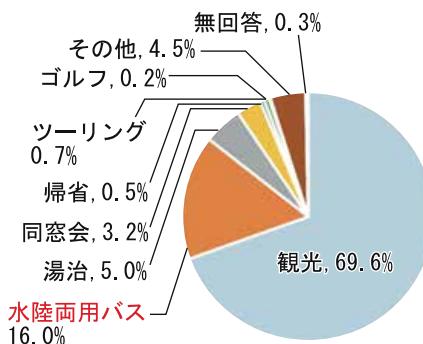
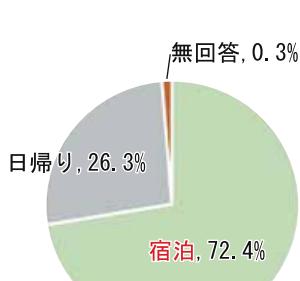
平成20年からは、水陸両用バスの運行が定期的（春～秋）に実施され、年間約1万5千人の観光客が利用し、今では年間約2万3千人の観光客が利用するまでに至っています。



### 水陸両用バス利用者の7割以上の方が宿泊しています。

水陸両用バスに乗車する人へのアンケート調査では、73% の人が鬼怒川上流地域に宿泊していると回答しています。また、水陸両用バスに乗車することを旅行目的とする人も16.0% 程度お見えになります。

水陸両用バスの利用者の居住地は、埼玉、東京、千葉、茨城、神奈川などの首都圏（65.3%）から来訪するだけでなく、地元栃木県内（20.3%）からも訪れています。

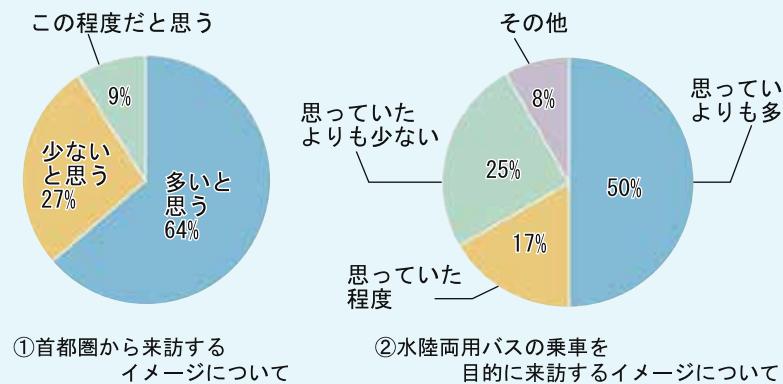


※上記の調査結果は、水陸両用バス導入協議会資料を参考に作成。なお、データはH26年のものです。

# 宿泊施設の経営者からみた水陸両用バスの導入について

湯西川温泉地区で宿泊施設を経営されている方々に、水陸両用バスの利用者の特徴（利用者数、宿泊割合など）を見ていきたい、水陸両用バスの導入に関する考え方をアンケート調査で把握しました。その調査結果の一部をお知らせします。

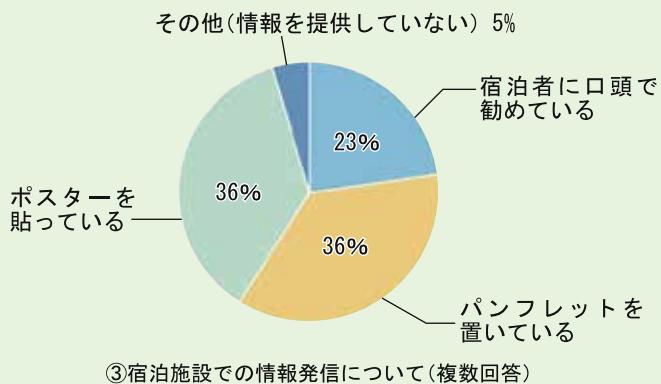
## ■ 水陸両用バスの利用者の特徴についてのイメージ



水陸両用バスの利用者が、「首都圏からの利用者が意外に多いこと」「水陸両用バスの乗車を目的に旅行に来る方が思っていたよりも多いこと」などと宿泊施設の経営者の方が感じているようです。

日頃感じているイメージと水陸両用バスの利用者の特性に若干の違いがあったように思われます。

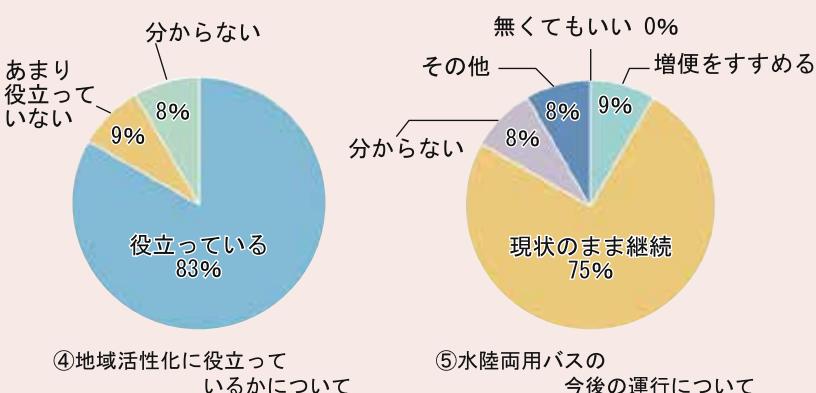
## ■ 宿泊施設における情報提供について



各宿泊施設で、水陸両用バスに関する情報を提供しているかを訪ねたところ、多くの宿泊施設では、口頭等にパンフレットやポスターを設置するなどの情報提供を実施しています。

しかし、「情報提供をしていない」との回答もありました。理由としては、「パンフレットやポスター等の情報提供がどこからも無かった」としています。

## ■ 水陸両用バスの導入効果について



水陸両用バスの導入が地域活性化に役立っているかを、宿泊施設の経営者の方々にお聞きしたところ、8割以上の経営者が「役立っている」と回答しています。

また、水陸両用バスの運行は、「増便」「現状のまま」など、このまま継続していくことを望んでいると考えられます。

宿泊施設の経営者の意識を見ると、「首都圏からの来訪者が“思っていたよりも多い”」「水陸両用バスの乗車を目的に来訪する人が“思っていたよりも多い”」などの印象を持っているようです。

そこで、水陸両用バスの導入効果を活かすためには、水陸両用バスの利用実態などの情報を、宿泊施設の経営者をはじめとする観光関連の方々に提供していく必要性があると考えています。今後は、“水源郷わくわく通信”を通じて、さらなる情報提供を実施していきます。